

9月9日(金) 実践報告2 第3室(343)

『英語で学ぶ経営学入門』の実践

— 経営学部2年生のためのEAP教材開発と授業 —

Developing EAP Materials for 2nd-year Business Administration Students

塩川 春彦(北海学園大学経営学部)

1 この実践報告の目的

この実践報告では、経営学およびその関連諸学の入門的な部分を英語で学ぶことを目的とした授業(対象は経営学部2年生)における、教材作成および指導について報告する。この実践報告が扱う問題は、以下の3つの領域にある。

(1) EAPの実践: 大学教育における英語教育の新しい役割の探求

大学英語教育学会(1992)は、大学における英語教育の役割について、「専門教育にとっての基礎教育的機能」と「中等教育段階での学習機能の完成教育的機能」を果たすべき、と提言している(p.6)。この実践は、ここで言うところの「専門教育にとっての基礎教育的機能」を追求する1つの試みとして、経営学部学生の学問的ニーズに合った英語教育のあり方を追求するものであり、English for Academic Purposesの実践の1つのあり方を追求するものである。

(2) コンテント・アプローチ(CBI)の実践

この実践は具体的には、経営学部学生の専門分野に含まれる内容を2年生にふさわしい形で、英語で学ばせるための手立てを探求しようとしている。この点で、コンテント・アプローチ(Content-based Language Instruction)の1つのあり方を探求するものでもある。

(3) メディア英語の有効な活用

この実践はさらに、経営学部所属の学生の学問的ニーズに合った英語教育という観点からメディア英語の有効な活用法を探求している。

2 対象学生および教育環境

2.1 対象学生

対象学生は、2004年度、2005年度に、北海学園大学経営学部2年生対象選択科目「リーディングストラテジーB」を受講した学生、合計約140人である。彼らの英語力は平均的大学生のレベルである。選択科目を受講している、という点で比較的高く動機付けられていると言える。

2.2 実践の教育環境: 北海学園大学経営学部「総合実践英語」

この実践は、北海学園大学経営学部の独自の英語教育プログラムである「総合実践英語」の中の「リーディングストラテジーB」において行われた。「総合実践英語」は、従来の一般英語とは異なり、次の4つの特徴を持つ英語の科目群である。

(1) ESP/EAP(専門科目の学習・研究および就職後に役立つ英語の学習)

(2) 4技能を統合した学習

- (3) コンピュータを利用した授業と学習
- (4) 習熟度別クラス編成

3 実践

3.1 教材の構成

教材の構成は次のようにした。

- (1) 経営学および関連諸学の代表的な分野のキー概念を概説した英文のアンソロジー
- (2) それぞれのトピックに関連した英文経済ビジネス記事
- (3) 内容理解確認のワークシート
- (4) 理論と実例の関係を考察したライティング課題(レポートまたはエッセイ)

3.2 トピックの選定

トピックの選定は、右表のとおりである。ビジネススクールではコア科目として扱われる分野である。

Chapter 1.	Management
Chapter 2.	Operations
Chapter 3.	Marketing and Marketing Research
Chapter 4.	Marketing Mix and Advertisement
Chapter 5.	Accounting
Chapter 6.	Economics
Chapter 7.	Organizational Behavior and Psychology
Chapter 8.	Strategy
Chapter 9.	Business Ethics
Chapter 10.	Communication in Business
Chapter 11.	Global Business

3.3 指導の流れ

経営学および関連諸分野の基本概念を英語で学ぶ、といういわゆる「外書講読」をイメージされるが、

本実践は「読んで、訳して、解説して終わる」という外書講読はまったく異なる。特に、いわゆる訳読はしなかったということを明記しておきたい。上記の教材の構成に従い、(1) 論理構成を把握させるためのワークシートへの取り組み、(2) 内容理解のための英問英答、(3) より深い理解のための英語でのミニレクチャー、(4) 読解に基づいたライティング活動、4つを柱とした指導過程とした。特にライティング活動は、ケース・スタディー的な活動である。

4 結果と考察

この実践から得られた成果、学生による授業評価、明らかになった今後の課題などの詳細は、発表時に明らかにする。観点としては、(1) EAP および CBI のための教材開発のありかた、(2) EAP および CBI における教員の役割、(3) 4 技能を統合した授業のあり方、(4) メディア英語の利用法、などがある。

参考文献

- 大学英語教育学会(JACET). (1992). 『大学設置基準改正に伴う外国語(英語)教育改善のための手引き(1) - JACET ハンドブック』 大学英語教育学会
 深山晶子(編). (2000). 『ESP の理論と実践』. 東京: 三修社.